



TOEIC® テスト新形式問題における リスニング・セクションパート3・パート4の 難易度と初級者のための攻略法を考察する —ETS 作成問題の分析を通して—

井 上 治

概要 本論では、10年ぶりの改定となった TOEIC® リスニング&リーディング テストに関して、Educational Testing Service が作成した、パート3 とパート4 の改定前の240問と改定後の276問を分析することを通して、問題の難易度にちがいがいいのかどうかをみる。そして、以前に考察した、「パート3 とパート4 は、3 問のセットの1 問目だけを解答せよ」という攻略法と、「パート3 とパート4 の3 問のセットの1 問目は、選択肢にある名詞のなかで、パート3 ならば最初の人（の）のせりふに、パート4 ならば出だしから2 文目までに最初に出てくる名詞を含む選択肢を選べ」という攻略法が、新形式問題においても、TOEIC®初級者にとって依然として効果的なものであるかどうかを検証する。

キーワード TOEIC® リスニング&リーディング テスト、リスニング・セクションパート3・パート4、初級者、攻略法、難易度

原稿受理日 2019年9月25日

Abstract This paper begins by analyzing questions from the Listening Sections III and IV of the TOEIC® test. 240 questions were taken from the old version and 276 questions from the revised version, all created by Educational Testing Service. The motivation for conducting this analysis was the partial revision of the test, which was the first change in ten years. On the basis of the results, I considered if there had been a change in the level of difficulty of the questions, and also whether the strategies outlined below are still effective for beginner level students answering questions on the new TOEIC® Listening & Reading Test. The two strategies are: “Low level students only need to try to answer the first of each three question set.” “For Part III, of all the nouns in the four choices, select the answer containing the noun that is first used by the opening speaker. For Part IV, of all the nouns in the four choices, select the answer containing the noun that is first used in the opening two sentences of the monologue.”

Key words TOEIC® Listening & Reading Test, Listening Sections III and IV, Beginners, Strategies, Level of difficulty

1. はじめに

公開テストにおいては2016年5月29日実施回から、そして、団体特別受験制度（IP: Institutional Program）においても2017年4月以降から、TOEIC® Listening & Reading Test（以下、TOEIC®）では新しい出題形式が導入された。

リスニング・セクションにおいては、TOEIC® 初級者⁽¹⁾にとって取り組みやすい Part 1 と Part 2 の問題数が、それぞれ10問→6問、30問→25問と減ることとなった。そのいっぽうで、取り組みにくい Part 3 と Part 4 については、Part 4 は30問（3問×10セット）のままとなったが、Part 3 は問題数が30問（3問×10セット）から39問（3問×13セット）に増えることとなった。

しかも、Part 1 と Part 2 については単純に問題数が減るだけなのに対して、Part 3 については、「3人の話し手による会話を聞いて答える問題が出題されます」、「会話中の表現の意図を問う設問が出題されます」、「図表を見て答える問題が出題されます」（『TOEIC® テスト 公式問題集 新形式問題対応編』16 [以下、『新形式』]）、そして、Part 4 については、「図表を見て答える問題が出題されます」、「説明文中の表現の意図を問う設問が出題されます」（『新形式』20）というような出題形式の追加もなされた。

このように、取り組みやすいパートの問題数が減るいっぽうで、取り組みにくいパートの問題数が増えるだけでなく、出題形式の追加までなされたわけなので、特に TOEIC® 初級者にとっては、新形式となった TOEIC® のリスニング・パートはその難易度が上がったと考えることは自然である。ところが、TOEIC® を運営する国際ビジネスコミュニケーション協会は、「スコアの持つ意味や難易度に変更はありません」（『新形式』9）としている。

このことから、筆者は、新形式問題のリスニング・パートでは Part 2 の難易度が下がるのではないかと仮定し、Part 2 の質問文について、「質問文の語数」、「質問文の種類」、「質問文に対する誤答の選択肢」という3種類の観点から、これまで3回にわたって分析と考察を行ってきた。最初の2回においては、「新形式問題における Part 2 の難易度は下がることが予想される」（井上2016, 38, 井上2017, 56）というように、筆者の仮定ど

(1) 本論では、TOEIC IP テストを初めて受けた大学生の平均点である421点（リスニング236点、リーディング186点）（『TOEIC® Program DATA & ANALYSIS 2019』11）を目標とする学生を「TOEIC® 初級者」と表現する。

おりの結論となったが、3回目の分析においては、「新形式問題における Part 2 の難易度はやや上がることが予測される」(井上2018, 47) という結論となった。

この結論を受けて筆者が考えたことは、「取り組みやすい Part 2 の出題数が減り、難易度が上がるのならば、いったいどのパートでバランスを取っているのであろうか。ひょっとしたら、難易度が上がることが容易に予測できた Part 3 と Part 4 の難易度が下がっているのであろうか」ということであった。

そこで本論では、TOEIC® 初級者にとって比較的取り組みやすい、Part 3 と Part 4 における各セットの1問目の問題について、新形式以前の6冊の公式問題集の Part 3 の120問と Part 4 の120問と、新形式以後の6冊の公式問題集の Part 3 の156問と Part 4 の120問に関して、筆者が以前提示した攻略法(「3問のセットの1問目だけを解答せよ」[井上2010, 25], 「3問のセットの1問目は、選択肢にある名詞のなかで、パート3ならば最初の人のせりふに、パート4ならば出だしから2文目までに最初に出てくる名詞を含む選択肢を選べ」[井上2010, 28])の観点から分析することによって、その難易度を測定するとともに、その攻略法が新形式問題となっても有効であるかどうかを考察する。

2. 攻略法を用いた Part 3 と Part 4 の指導方法

Part 1 と Part 2 に関しては、選択肢の文も質問文も6語から10語前後のひとつの文なので、TOEIC® 初級者にとっても取り組みやすく、指導もしやすいが、Part 3 と Part 4 に関しては、問題文が多くので構成される会話文や説明文であるため、筆者もその指導方法については試行錯誤を重ねてきた。

最近では、クラス平均400点越えを目指す TOEIC® 初級者のクラスにおいても、クラス平均600点越えを目指す TOEIC® 中級者のクラスにおいても、筆者は以下のような方法で Part 3 と Part 4 の演習を行なっている。

まず、Part 3 と Part 4 の攻略の大前提は、「質問文(と選択肢)の『先読み』であることを徹底して理解させる。「後読み」の場合には、問題文中の情報をすべて把握しなければならず、しかも、問題文の前半の情報をほぼ忘れてしまうばかりか、かろうじて記憶している情報も、それが出題の対象になっているかどうかは「後読み」するまでわからないのである。したがって、「後読み」では、3問セット中1問を正解できるかどうかも怪しくなる。いっぽうで、しっかりと「先読み」ができれば、質問されている情報だけを聞き取ればよいので、正答にたどりつきやすく、しかも、その部分を聞き取ることができ

ば、その続きは聴かなくても良いので疲れにくいため、パートの途中でしんどくなって投げ出すことなく、より多くの問題に対応できるようになる。

次に、初級者には、「3問のセットの1問目だけを解答せよ」（ここで、攻略法を取り入れている）と、中級者には、「1問目を中心に解答せよ、さらに『先読み』できる時間があれば、2問目か3問目のどちらか簡単そうなほうを選んで『先読み』せよ」と指導している。2問目と3問目のどちらを選ぶかという目安は、「理由の Why・内容の What の質問文の問題とくらべて正答をピンポイントで聴き取りやすい、When・Where・Who・What（物）・How many などの質問文の問題を選べ」、「質問文が短いほうの、あるいは、選択肢が短いほうの問題を選べ」と伝えている。

3問セットの1問目を（中心に）解答する利点は、① Part 3 は39問中13問を、Part 4 は30問中10問を（中心に）解答すればいいので、「質問文（と選択肢）の『先読み』がじっくりとできること、②「三分之一」だけを（中心に）解答すればいいので、疲れないままリーディング・セクションに突入できること、③1問目は、Part 3 では最初の人のせりふに、Part 4 では2文目までに答えが出てくる（ここで、2番目の攻略法の一部を取り入れている）場合がほとんどなので、苦手な人でも集中して聴くことができること、④1問目は簡単な問題が多いこと、⑤1問目は、会話文や説明文全体からキーワードを拾って答えるパターンの問題も多く、このパターンでは単語を拾い聴きしていけばいいので取り組みやすいこと、などを説明する。

この説明に対しては、「3問セットの1問目を（中心に）解答するだけでは、400点越え（や600点越え）は無理なのではないか」という疑問が受講者から起こるが、400点に到達するには Part 3 は38%⁽²⁾、Part 4 は33%の正答率で十分であること（600点に到達するには Part 3 は55%、Part 4 は48%の正答率で十分であること）を伝える⁽³⁾。そして、初級者には、Part 3 を例に、「3問セットの1問目」だけを解答し、「1問目を13問中9問（すなわち、7割の問題に）」正解すれば、「9問+6.5問（解答しない26問で同じ記号を選択→4

(2) TOEIC は受験者のパートごとの正答率を公表していないので、三枝幸夫氏が30年前に発表しているデータを参考にする。近年さまざまな TOEIC 関連の参考書が載せているデータは三枝氏のものとはほぼ変わらないし、受験者の実際のデータを基にしている唯一のものであるという点で大いに参考になる。400点の正答率は、Part 3—32%、Part 4—33%、500点は Part 3—39%、Part 4—40%、600点は Part 3—49%、Part 4—48%となっている（Saegusa, 138）。三枝氏のデータの32%ではなく、38%とした理由は、（井上2010, 21-22）を参照。それと同じ理由で、600点レベルの Part 3 の数値も49%ではなく、55%とした。

(3) 近畿大学経済学部の学生は、リスニング・セクションが得意で、リーディング・セクションが不得意な傾向にあるので、授業では、最終的には、400点は Part 3—41%、Part 4—46%、600点は Part 3—61%、Part 4—66%を目標の正答率としている。

択なので理論上6.5問正解=15.5問」の正解となること、そして、 $15.5問 \div 39問 = 39.7\%$ は、38%という数値をクリアしていることを説明する。このように、400点（や600点）に到達できる正答率を知ることで、多くの問題に正解しなければならないと思ってあわててしまったり、「後読み」になったりすることがなくなり、しっかりと「先読み」をして解答できるようになる。

あとは、「質問文（と選択肢）の『先読み』」をする時間をうまく作り出すことが大事になるので、授業では、「問題指示文の時間」と「次のセットが始まるまでの時間」という「2種類の時間」を活用する演習をしている。① Part 1 の問題指示文から演習をスタートし、その90秒のあいだの少なくとも60秒を、Part 3 の各セットの1問目（32番、35番、38番・・・）の質問文（と選択肢）を（中心に）「先読み」させる。② Part 1 の問題指示文が終わったら、Part 1 を2問だけ解答させる（限られた授業時間では、Part 1 や Part 2 の問題も全問解くというわけにはいかず、しかし、できるだけ本番の形式に近づけるために、Part 1 や Part 2 も部分的に解答させている）。③ Part 2 の問題指示文に飛び、そのおよそ30秒のあいだに、各セットの1問目を（中心に）質問文（と選択肢）の「先読み」を続けさせる。④ Part 2 の問題指示文が終わったら、Part 2 を5問だけ解答させる。⑤ Part 3 の問題指示文（30秒）に飛び、各セットの1問目を（中心に）質問文（と選択肢）の「先読み」を続けさせる。そして、Part 3 の最初のセットが始まるころには、「32番の選択肢を見ながら、最初の人（の特に出だしの部分）をしっかりと聴く」態勢をつくらせる。⑥ 32番の答えがわかった時点で（答えがわからない場合でも、32番の質問文の音声の流れ終わるまでに）マークシートを塗り、33番と34番は試験前に決めておいた記号を塗らせる（中級者で33番と34番のどちらかを解答する問題に選んでいる場合には、続けて素早く解答させる）。⑦ 32番の質問文の音声の流れ終わるまでにマークシートを塗れば、次のセット（35番～37番）の会話の音声が始まるまでに、およそ25秒の時間が生まれるので、そのあいだに35番の質問文（と選択肢）を「先読み」させる（中級者には、さらに、36番と37番のどちらかを解答すべき問題と判断すれば、質問文〔と選択肢〕を「先読み」させる）。⑧ この「次のセットが始まるまでの時間」という2種類目の時間を活用して（つまり、⑥～⑦の作業をくり返して）、Part 4 の最後まで演習させている。少なくとも4回、この方法で演習することで、受講者はうまく「先読み」ができるようになり、それとともに正答率も上がっていく。

ここまで、筆者の Part 3 と Part 4 の指導方法を述べてきたが、次項からは、その指導方法に取り入れている、筆者が以前から提示している、「3問のセットの1問目だけを解

答せよ」,「3問のセットの1問目は、選択肢にある名詞のなかで、パート3ならば最初の人のせりふに、パート4ならば出だしから2文目までに最初に出てくる名詞を含む選択肢を選べ」という攻略法が、新形式問題の Part 3 と Part 4 においても、TOEIC® 初級者にとって依然として有効であるかどうかを検証する。

3. ひとつ目の攻略法の有効性を検証する

「パート3とパート4は、3問のセットの1問目だけを解答せよ」という攻略法に関してであるが、誤解のないように説明しておく、この攻略法は、「1問目だけしか解答してはいけない」という消極的なものではなく、「将来500点、600点に到達するためにも、質問文(と選択肢)を『先読み』して答える問題を1問でも多く増やしましょう。その第一歩として、多くの利点がある1問目を解答していきましょう」という積極的な攻略法なのである。

TOEIC® 初級者に多くみられる最大の欠点は、すべての問題を解こうとしてしまうことである。それによって、難易度の高い問題に時間を取られてしまい、自分が正解できるレベルの問題を聴き逃してしまう・時間切れでやり残してしまうのである。TOEIC® は初級者も満点を目指す上級者も同一問題で受験するテストなので、初級者は、「今の時点の自分には、正解できなくてもかまわない問題がたくさんある」ことを認識し、難易度の高い問題を良い意味で素早くあきらめ、「自分が正解できるレベルの問題に時間を有効に使って解いていく」ことが TOEIC® で成功する秘訣であることを理解することが大切である。この「自分が正解できるレベルの問題を解答する」という成功の秘訣をまさに実践しているのが、1問目に的をしぼる、「パート3とパート4は、3問のセットの1問目だけを解答せよ」というこの攻略法なのである。

まず、Part 3 の問題について、3問のセットの1問目の答えを導くことができる部分が、会話文の「最初の人せりふ」に出てくる問題の数を、「練習テスト」・「TEST」ごとに示したものが表1である。改定前の旧形式の問題については、7年前の前回、5冊目までの公式問題集の「練習テスト」の合計100セットの1問目に関して分析を行なったものに(井上2012, 8-10), その後に出版された、『TOEIC® テスト 新公式問題集 Vol. 6』の20セットの数値が追加されている。いっぽう、改定後の新形式の問題については、2019年9月現在で出版されている、6冊の公式問題集の「練習テスト」・「TEST」の合計156セットの1問目に関して分析を行なったものである。

TOEIC® テスト新形式問題におけるリスニング・セクション パート3・パート4の難易度と
初級者のための攻略法を考察する (井上)

表1⁽⁴⁾

| テキスト記号 | 旧1-1 | 旧1-2 | 旧2-1 | 旧2-2 | 旧3-1 | 旧3-2 |
|--------|------|------|------|------|------|------|
| 10問中 | 6問 | 4問 | 6問 | 7問 | 7問 | 5問 |

| テキスト記号 | 旧4-1 | 旧4-2 | 旧5-1 | 旧5-2 | 旧6-1 | 旧6-2 | 旧 合計 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|
| 10問中 | 8問 | 7問 | 10問 | 9問 | 10問 | 9問 | 88問 |

| テキスト記号 | 新N-1 | 新N-2 | 新1-1 | 新1-2 | 新2-1 | 新2-2 |
|--------|------|------|------|------|------|------|
| 13問中 | 8問 | 9問 | 11問 | 11問 | 9問 | 10問 |

| テキスト記号 | 新3-1 | 新3-2 | 新4-1 | 新4-2 | 新5-1 | 新5-2 | 新 合計 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|
| 13問中 | 8問 | 9問 | 9問 | 11問 | 11問 | 9問 | 115問 |

表1より、1問目の答えを導くことができる部分が、会話文の「最初の人のせりふ」に出てくるものは、旧形式において平均10問中7.3問(73%)、新形式で平均13問中9.5問(73.1%)である。注目すべき点は、「最初の人のせりふ」に出てくる割合が、旧形式の後半から高くなり、新形式においてもその傾向がずっと続いているということである。

さて、TOEIC® 初級者が、旧形式において、その7.3問中の7割に当たる5.1問に正解することができるであろうと仮定すると、「5.1問+5問(解かない20問にすべて同じ記号を

(4) 以下の表中の「テキスト記号」について、「旧1-1」「旧1-2」は、『TOEIC® テスト新公式問題集』の「練習テスト(1)」(31~40, スクリプトは『解答・解説編』15~34)「同(2)」(83~92, スクリプトは『同』97~116)であることを示す。以下同様に、「旧2-1」「旧2-2」は『同 Vol. 2』の「練習テスト(1)」(33~38, スクリプトは『同』15~34)「同(2)」(79~84, スクリプトは『同』101~120), 「旧3-1」「旧3-2」は『同 Vol. 3』の「練習テスト(1)」(41~46, スクリプトは『同』15~34)「同(2)」(83~88, スクリプトは『同』101~120), 「旧4-1」「旧4-2」は『同 Vol. 4』の「練習テスト(1)」(41~46, スクリプトは『同』15~34)「同(2)」(85~90, スクリプトは『同』101~120), 「旧5-1」「旧5-2」は『同 Vol. 5』の「練習テスト(1)」(41~46, スクリプトは『同』15~34)「同(2)」(85~90, スクリプトは『同』101~120), 「旧6-1」「旧6-2」は『同 Vol. 6』の「練習テスト(1)」(35~40, スクリプトは『同』15~34)「同(2)」(79~84, スクリプトは『同』98~117)であることを示す。

さらに、「新N-1」「新N-2」は、『TOEIC® テスト公式問題集 新形式問題対応編』の「練習テスト(1)」(41~47, スクリプトは『解答・解説』12~34)「同(2)」(83~89, スクリプトは『同』98~120)であることを示す。以下同様に、「新1-1」「新1-2」は『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集1』の「TEST 1」(35~41, スクリプトは『同』13~41)「同2」(77~83, スクリプトは『同』105~133), 「新2-1」「新2-2」は『同問題集2』の「同1」(35~41, スクリプトは『同』13~41)「同2」(77~83, スクリプトは『同』106~133), 「新3-1」「新3-2」は『同問題集3』の「同1」(35~41, スクリプトは『同』14~41)「同2」(77~83, スクリプトは『同』106~133), 「新4-1」「新4-2」は『同問題集4』の「同1」(35~41, スクリプトは『同』14~41)「同2」(77~83, スクリプトは『同』106~133), 「新5-1」「新5-2」は『同問題集5』の「同1」(35~41, スクリプトは『同』14~41)「同2」(77~83, スクリプトは『同』110~137)であることを示す。

そして、問題を引用する場合には、例えば、「旧6-1-41」「新N-1-71」「新5-2-32」というように、最後に問題番号を記す。

選択した場合の20問÷4択=5問)+1.2問(わからなかった4.9問にすべて同じ記号を選択した場合の4.9問÷4択=1.2問)]÷「Part 3の問題総数30問」=37.7%，そして、新形式においても、その9.5問中の7割に当たる6.7問に正解すると仮定すると、「6.7問+6.5問(解かない26問にすべて同じ記号を選択)+1.6問(わからなかった6.3問にすべて同じ記号を選択)」÷「Part 3の問題総数39問」=37.9%という正答率が出る。この数値は、前項で示した、初級者が400点に到達するために必要な正答率38%にほぼ到達している。

したがって、Part 3に関しては、「パート3とパート4は、3問のセットの1問目だけを解答せよ」という攻略法は、新形式においても依然として有効であることが示されている。そして、この攻略法からみると、37.7%と37.9%という数値から明らかなように、新形式におけるPart 3の「難易度は変わらない」ということになる。

では、Part 4に関してはどうだろうか。Part 4の問題について、3問のセットの1問目の答えを導くことができる部分が、説明文の「出だしから2文目まで(Part 4では、「新N-2-86~88」の“Good afternoon.”や「新1-2-71~73」の“Hello, this is Sylvia Chen.”のようなあいさつのみの短い文は2文目を1文目とみなした)」に出てくる問題の数を、旧形式の問題120セットと新形式の問題120セットについて、Part 3の場合と同様に示したものが表2である。

表2

| | | | | | | | |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|
| テキスト記号 | 旧1-1 | 旧1-2 | 旧2-1 | 旧2-2 | 旧3-1 | 旧3-2 | |
| 10問中 | 3問 | 7問 | 7問 | 7問 | 7問 | 8問 | |
| テキスト記号 | 旧4-1 | 旧4-2 | 旧5-1 | 旧5-2 | 旧6-1 | 旧6-2 | 旧合計 |
| 10問中 | 8問 | 9問 | 9問 | 10問 | 9問 | 7問 | 91問 |
| テキスト記号 | 新N-1 | 新N-2 | 新1-1 | 新1-2 | 新2-1 | 新2-2 | |
| 10問中 | 5問 | 9問 | 9問 | 9問 | 9問 | 7問 | |
| テキスト記号 | 新3-1 | 新3-2 | 新4-1 | 新4-2 | 新5-1 | 新5-2 | 新合計 |
| 10問中 | 9問 | 9問 | 10問 | 10問 | 8問 | 9問 | 103問 |

表2より、1問目の答えを導くことができる部分が、説明文の「出だしから2文目まで」に出てくるものは、旧形式において平均10問中7.6問(76%)、新形式で平均10問中8.6問(86%)ある。Part 4に関しては、「出だしから2文目まで」に出てくる割合は、旧形式か

TOEIC® テスト新形式問題におけるリスニング・セクション パート3・パート4の難易度と
初級者のための攻略法を考察する（井上）

ら新形式まで、安定した数値で推移してきている。

TOEIC® 初級者が、旧形式において、7.6問中の7割に当たる5.3問に正解すると仮定すると、「5.3問+5問+1.2問」÷「Part4の問題総数30問」=38.3%，そして、新形式においても、その8.6問中の7割に当たる6.0問に正解すると仮定すると、「6.0問+5問+1.0問」÷「30問」=40.0%という正答率が出る。この数値は、前項で示した、初級者が400点に到達するために必要な正答率33%をクリアできている。

このように、Part4に関しても、「パート3とパート4は、3問のセットの1問目だけを解答せよ」という攻略法は、新形式においても依然として有効であることが示されている。そして、38.3%と40.0%という数値からこの攻略法をみると、新形式におけるPart4の「難易度はやや下がっている」ということになる。

以上みてきたように、「パート3とパート4は、3問のセットの1問目だけを解答せよ」という攻略法は、新形式において、どちらのパートに関しても、TOEIC® 初級者に依然として有効であることがわかった。そして、この攻略法の結果からみると、新形式におけるPart3とPart4の難易度は、「変わらない」と「やや下がっている」となったので、トータルでは「ほんの少し下がっている」ということができる。

4. ふたつ目の攻略法の有効性を再検証する

さて、以前から考察してきているように、会話文や説明文の最初のほうに正答に関連した部分が出てくるからといって、特に TOEIC® 初級者にとっては、すべての問題で正答にたどりつけるとは限らない。例えば、「新2-1-62」は“What is the man’s job?”という質問文に対して、あいさつの次に、“This is Clyde Anderson from *Business Global Magazine*. I’m writing an article on waste reduction programs, and I understand your company has made significant achievements in that regard at your manufacturing plants.”と最初の人とのせりふが続く。*Magazine* → article というキーワードの流れから選択肢(B) Journalist を選べば良いのであるが、初級者にとっては、magazine → journal という言い換えに気づかない、あるいは、magazine を聴き逃してしまうこともあり得る。そして、続く plant という語から推測した(D) Engineer や、plant を「植物」と解釈した(A) Scientist、さらには、答えを迷っていると次の人のせりふでくり返される plant という語から(A)か(D)であることを確信してしまったり、あるいは、そのあとに出てくる Mexico City という表現から(C) City official を選んでしまう可能性が高くなる。もうひとつ例を

挙げると、「新3-1-71」は“What is the purpose of the announcement?”という質問文に対して、“Before we end this meeting, I'd like to take a minute to recognize Janet Kalasky. She's led our department's marketing efforts for the past five years and has shown a tremendous amount of dedication to the company.”というのが2文目までのせりふである。会社に貢献をした人をほめたたえているという内容から、選択肢(A) To acknowledge a coworker を選ばば良いのであるが、初級者にとっては、acknowledge → recognize という言い換えはとてもむずかしい。そして、人を紹介していることは確かなことから(B) To introduce a guest や、marketing という語から(D) To discuss sales technique, あるいは、department という語を含むことから(C) To explain a department policy を選んでしまう可能性は高い。

このように、TOEIC® 初級者にとっては、1問目の正答に関連した部分が会話文や説明文の最初のほうに出てくると知ってはいても、正答にたどり着けないケースは当然のように出てくる。そこで、筆者は、ひとつ目の攻略法「パート3とパート4は、3問のセットの1問目だけを解答せよ」からもう一步踏み込んだ攻略法を提示してきた。それが、「パート3とパート4の3問のセットの1問目は、選択肢にある名詞のなかで、パート3ならば最初の人のせりふに、パート4ならば出だしから2文目までに最初に出てくる名詞を含む選択肢を選べ」という攻略法である。この攻略法における「名詞」とは、例えば、選択肢に attendance がある場合にはその語のみが対象となり、attendee や attention のような派生語・関連語は別の語と考えて攻略法の対象としない。いっぽうで、school attendance の school のような名詞の形容詞的用法は「名詞」とみなして対象の語とする。

それでは、このふたつ目の攻略法について、前項と同様に、新形式問題の Part 3 と Part 4 においても、TOEIC® 初級者にとって依然として有効であるかどうかを検証する。

表3は、Part 3 の問題について、正解の選択肢に含まれる名詞が、会話文の「最初の人のせりふ」の中で、誤答選択肢に含まれる名詞よりも先に出てくる問題を、前項と同じ問題について分析を行なったものである。

表3より、正解の選択肢に含まれる名詞が、会話文の「最初の人のせりふ」の中で、誤答選択肢に含まれる名詞よりも先に出てくる問題は、旧形式において平均10問中5.3問(53%)、新形式で平均13問中5.5問(42.3%)である。新形式において、11ポイントも数値が下がっているのが注目すべき点である。

さて、ひとつ目の攻略法が「最初の人のせりふ」の内容を聴き取らなければならないのにくらべると、こちらの攻略法は「最初の人のせりふ」の中の名詞だけを聴き取ることが

TOEIC® テスト新形式問題におけるリスニング・セクション パート3・パート4の難易度と
初級者のための攻略法を考察する（井上）

表3

| テキスト記号 | 旧1-1 | 旧1-2 | 旧2-1 | 旧2-2 | 旧3-1 | 旧3-2 |
|--------|------|------|------|------|------|------|
| 10問中 | 5問 | 4問 | 4問 | 4問 | 6問 | 4問 |

| テキスト記号 | 旧4-1 | 旧4-2 | 旧5-1 | 旧5-2 | 旧6-1 | 旧6-2 | 旧 合計 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|
| 10問中 | 5問 | 6問 | 6問 | 8問 | 7問 | 5問 | 64問 |

| テキスト記号 | 新N-1 | 新N-2 | 新1-1 | 新1-2 | 新2-1 | 新2-2 |
|--------|------|------|------|------|------|------|
| 13問中 | 4問 | 4問 | 7問 | 9問 | 5問 | 4問 |

| テキスト記号 | 新3-1 | 新3-2 | 新4-1 | 新4-2 | 新5-1 | 新5-2 | 新 合計 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|
| 13問中 | 5問 | 5問 | 3問 | 7問 | 6問 | 7問 | 66問 |

できれば良いため、TOEIC® 初級者でも正答にたどりつける割合は上がるので、旧形式において、その5.3問中の9割に当たる4.8問に正解することができるであろうと仮定すると、「4.8問+5問+1.2問（選択肢中の名詞が出てこない4.7問にすべて同じ記号を選択した場合の4.7問÷4択=1.2問）」÷「Part3の問題総数30問」=36.7%、そして、新形式においても、その5.5問中の9割に当たる5.0問に正解すると仮定すると、「5.0問+6.5問+1.9問（選択肢中の名詞が出てこない7.5問にすべて同じ記号を選択した場合の7.5問÷4択=1.9問）」÷「39問」=34.4%という正答率が出る。表1の数値と比較すると、旧形式においては37.7%から36.7%へと1ポイントだけ数値が下がり、新形式においては、37.2%から34.4%へと3ポイントほども数値が下がっている。つまり、旧形式の数値は、初級者が400点に到達するために必要な正答率38%にほぼ到達できているが、新形式の数値は「ほぼ到達できている」とは言い難い。

したがって、Part3に関しては、「パート3とパート4の3問のセットの1問目は、選択肢にある名詞のなかで、パート3ならば最初の人のせりふに、パート4ならば出だしから2文目までに最初に出てくる名詞を含む選択肢を選べ」という攻略法は、新形式においては「有効である」とは言えなくなってきたことがわかる。そして、この攻略法からみると、新形式におけるPart3の「難易度は上がっている」ということになる。

では、Part4に関しても同じようにみてみよう。Part4の問題について、正解の選択肢に含まれる名詞が、説明文の「出だしから2文目まで」の中で、誤答選択肢に含まれる名詞よりも先に出てくる問題を、Part3の場合と同様に示したものが表4である。

表4より、正解の選択肢に含まれる名詞が、説明文の「出だしから2文目まで」の中で、

表 4

| テキスト記号 | 旧 1-1 | 旧 1-2 | 旧 2-1 | 旧 2-2 | 旧 3-1 | 旧 3-2 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 10問中 | 2問 | 5問 | 5問 | 7問 | 6問 | 7問 |

| テキスト記号 | 旧 4-1 | 旧 4-2 | 旧 5-1 | 旧 5-2 | 旧 6-1 | 旧 6-2 | 旧 合計 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 10問中 | 7問 | 9問 | 8問 | 9問 | 7問 | 3問 | 75問 |

| テキスト記号 | 新N-1 | 新N-2 | 新 1-1 | 新 1-2 | 新 2-1 | 新 2-2 |
|--------|------|------|-------|-------|-------|-------|
| 10問中 | 3問 | 5問 | 6問 | 5問 | 9問 | 3問 |

| テキスト記号 | 新 3-1 | 新 3-2 | 新 4-1 | 新 4-2 | 新 5-1 | 新 5-2 | 新 合計 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 10問中 | 5問 | 6問 | 5問 | 6問 | 7問 | 9問 | 69問 |

誤答選択肢に含まれる名詞よりも先に出てくる問題は、旧形式において平均10問中6.3問(63%)、新形式で平均10問中5.8問(58%)である。表3の場合と同様に、新形式において、数値が下がっているのが注目点である。

さて、TOEIC® 初級者が、旧形式において、その6.3問中の9割に当たる5.7問に正解することができるであろうと仮定すると、「5.7問+5問+0.9問(選択肢中の名詞が出てこない3.7問にすべて同じ記号を選択した場合の3.7問÷4択≒0.9問)÷「Part4の問題総数30問」=38.7%、そして、新形式においても、その5.8問中の9割に当たる5.2問に正解すると仮定すると、「5.2問+5問+1.1問(選択肢中の名詞が出てこない4.2問にすべて同じ記号を選択した場合の4.2問÷4択≒1.1問)÷「30問」=37.7%という正答率が出る。表2の数値と比較すると、旧形式においては、38.3%から38.7%へと0.4ポイント数値が上がり、新形式においては、40.0%から37.7%へと2.3ポイント数値が下がっている。しかし、旧形式の数値38.7%も、新形式の数値37.7%も、初級者が400点に到達するために必要な正答率33%をクリアできている。

このように、Part4に関しては、「パート3とパート4の3問のセットの1問目は、選択肢にある名詞のなかで、パート3ならば最初の人(のせりふ)に、パート4ならば出だしから2文目までに最初に出てくる名詞を含む選択肢を選べ」という攻略法は、新形式においても依然として有効であることが示されている。そして、38.7%と37.7%という数値からこの攻略法をみると、新形式におけるPart4の「難易度はやや上がっている」ということになる。

以上みてきたように、「パート3とパート4の3問のセットの1問目は、選択肢にある

TOEIC® テスト新形式問題におけるリスニング・セクション パート3・パート4の難易度と
初級者のための攻略法を考察する (井上)

名詞のなかで、パート3ならば最初の人のせりふに、パート4ならば出だしから2文目までに最初に出てくる名詞を含む選択肢を選べ」という攻略法は、新形式ではPart4においてのみ有効であることがわかった。そして、この攻略法の結果からみると、新形式におけるPart3とPart4の難易度は、「上がっている」と「やや上がっている」となったが、Part3の数値の変動が大きかったので、トータルでも「上がっている」としたい。

さて、今、ふたつ目の攻略法に関して、「新形式ではPart4においてのみ有効であることがわかった」と述べたが、Part3の数値も極端に下がったわけではないし、ぜひ、次の点に注目してもらい、「ふたつ目の攻略法は新形式のPart3でも依然として有効であると言っても言い過ぎではない」ことを理解してもらいたい。

それは、ふたつ目の攻略法に関して、TOEIC® 初級者にとって、正答によりたどりつきやすい問題が増加しているということである。例を挙げると、「新4-1-38~40」は、「Hi. I ordered a set of dishes from your company weeks ago, but I haven't received the order yet. My order number is 785.」という最初の人のせりふで始まるので、攻略法にしたがって、4つの選択肢の名詞の中で最初に出てくる名詞 set を含む選択肢(C) A set of dishes を選べば正解である。ここで注目すべき点は、正解の選択肢(C)以外の選択肢に含まれる5つの名詞 dining, table, kitchen, appliance, computer が最初の人のせりふから最後の人のせりふまで一切出てこない（そして、この問題においては、[C]の選択肢のもうひとつの名詞 dishes が、set のすぐあとに出てくるだけでなく、次の人のせりふ以降でさらに2回出てくるので、選択肢 [C] が正解であることを確信できる）ということである。もうひとつ例を挙げると、「新5-1-68~70」は、「Hi, Susan. I wanted to talk to you about Mr. Yamada's retirement celebration. Since he likes bowling, I found this local bowling alley that does parties.」という最初の人のせりふで始まる。攻略法から名詞 retirement を含む選択肢(B) To celebrate a retirement を選べば正解である。そして、誤答の選択肢に含まれる4つの名詞 promotion, company, merger, client は最初から最後まで一切出てこない（そして、この問題では、retirement が次の人のせりふでも出てくるので、選択肢 [B] が正答でまちがいないことを確信できる）。

この、ふたつ目の攻略法に関連する、「正解の選択肢に含まれる名詞が、パート3ならば最初の人のせりふに、パート4ならば出だしから2文目までに出てくるいっぽうで、誤答の選択肢の名詞は最初から最後まで一切出てこない」というパターンは、旧形式では、Part3に関しては、64問中26問(40.6%)、Part4に関しては、75問中23問(30.7%)であったのに対して、新形式では、Part3に関しては、66問中49問(74.2%)、Part4に関

しては、69問中49問(71.0%)にみられ、その割合が大幅に増えている(このパターンからみると、新形式における Part 3 と Part 4 の「難易度は下がっている」といえる)。

したがって、このパターンが大幅に増えていることを覚えておけば、TOEIC® 初級者も自信をもって正解の選択肢を選ぶことができるようになるので、ふたつ目の攻略法を使った際にまちがえてしまう問題がほぼなくなるであろう。

そこで、先ほどは、初級者が「9割に当たる問題に正解すると仮定」して数値を出したものを、「10割正解できると仮定」して数値を出し直してみると、新形式の Part 3 では、 $(5.5問 + 6.5問 + 1.9問) \div (39問) = 35.6\%$ 、Part 4 では $(5.8問 + 5問 + 1.1問) \div (30問) = 39.7\%$ という正答率が出てくる。この Part 3 の 35.6% という数値は、初級者が400点に到達するために必要な正答率38%に依然として到達できていないが、Part 3 と Part 4 をトータルで考えてみると、 $(11.3問 + 11.5問 + 3.0問) \div (69問) = 37.4\%$ となり、38%にほぼ到達できていることになるのである。

以上のことから、「パート3とパート4の3問のセットの1問目は、選択肢にある名詞のなかで、パート3ならば最初の人のせりふに、パート4ならば出だしから2文目までに最初に出てくる名詞を含む選択肢を選べ」というふたつ目の攻略法は、「新形式の Part 3 でも依然として有効であると言っても言い過ぎではない」のである。

5. お わ り に

本論では、Part 3 と Part 4 における各セットの1問目の問題について、新形式以前の問題と、新形式以後の問題に関して、「3問のセットの1問目だけを解答せよ」、「3問のセットの1問目は、選択肢にある名詞のなかで、パート3ならば最初の人のせりふに、パート4ならば出だしから2文目までに最初に出てくる名詞を含む選択肢を選べ」というふたつの攻略法の観点から分析し、新形式問題における Part 3 と Part 4 の難易度を測定するとともに、TOEIC® 初級者にとって、それらの攻略法が新形式問題においても有効であるかどうかを考察してきた。

攻略法については、「Part 3 において、ふたつ目の攻略法が有効ではない」ことがわかったが、ふたつ目の攻略法に関連する、「正解の選択肢に含まれる名詞が、パート3ならば最初の人のせりふに、パート4ならば出だしから2文目までに出てくるいっぽうで、誤答の選択肢の名詞は最初から最後まで一切出てこない」というパターンの問題の割合が大幅に増加していることから、完全に有効ではないとは言いきれないので、「先読み」がうま

くできなかった場合の補助的な攻略法として、積極的に活用してほしいと思う。

攻略法の分析の結果からみた、新形式における Part 3 と Part 4 の難易度は、トータルでは「ほんの少し下がっている」と「上がっている」となったので、結論としては、「やや上がっている」となるであろう。Part 2 についても、筆者は、「やや上がることが予測される」という結論を出したので、国際ビジネスコミュニケーション協会が、「スコアの持つ意味や難易度に変更はありません」(『新形式』9) とする限りは、リーディング・セクションの難易度が下がっていると推測するしかない。またの機会に、リーディング・セクションの難易度について考えてみたい。

TOEIC® 初級者が、Part 3 と Part 4 でふたつの攻略法を用い、1 問目だけでもしっかりと質問文(と選択肢)を「先読み」して答えることで、リスニング・セクションのスコアが大幅にアップする喜びを知り、近い将来に、2 問目や3 問目の質問文(と選択肢)も「先読み」して答えることができる TOEIC® 中級者・TOEIC® 上級者になることをいつものように願いつつ、本論を終える。

引 証 文 献

- [1] Saegusa, Yukio. "A Practical Criterion for Measuring English Proficiency." *Waseda Journal of Human Sciences* (Faculty of Human Sciences, Waseda University) 3.1 (1990): 133-45.
- [2] Educational Testing Service. 『TOEIC® テスト 新公式問題集』東京：国際コミュニケーションズ・スクール，2005.
- [3] —. 『TOEIC® テスト 新公式問題集 Vol. 2』東京：国際コミュニケーションズ・スクール，2007.
- [4] —. 『TOEIC® テスト 新公式問題集 Vol. 3』東京：国際コミュニケーションズ・スクール，2008.
- [5] —. 『TOEIC® テスト 新公式問題集 Vol. 4』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2009.
- [6] —. 『TOEIC® テスト 新公式問題集 Vol. 5』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2012.
- [7] —. 『TOEIC® テスト 新公式問題集 Vol. 6』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2014.
- [8] —. 『TOEIC® テスト 公式問題集 新形式問題対応編』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2016.
- [9] —. 『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 1』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2016.
- [10] —. 『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 2』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2017.
- [11] —. 『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 3』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2017.

- [12] —. 『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 4』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2018.
- [13] —. 『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 5』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2019.
- [14] 井上 治. 「TOEIC® テスト初級者のためのリスニング・セクション パート 2 攻略法——ETS 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』（近畿大学経済学会）第 4 巻第 3 号（2007年 3 月）：47-59.
- [15] —. 「TOEIC® テスト初級者のためのリスニング・セクション パート 2 攻略法再考——近畿大学経済学部の TOEIC® テストへの取り組みとともに」『生駒経済論叢』（近畿大学経済学会）第 6 巻第 2 号（2008年10月）：115-131.
- [16] —. 「TOEIC® テスト初級者のためのリスニング・セクション パート 3 ・パート 4 攻略法—— Educational Testing Service 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』（近畿大学経済学会）第 8 巻第 1 ・ 2 号（2010年11月）：19-34.
- [17] —. 「TOEIC® テスト初級者のためのリスニング・セクション パート 3 ・パート 4 攻略法再考—— ETS 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』（近畿大学経済学会）第10巻第 2 号（2012年 1 月）：1-16.
- [18] —. 「TOEIC® テストの新形式問題におけるパート 2 の難易度を推察する——ETS 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』（近畿大学経済学会）第14巻第 2 号（2016年11月）：27-39.
- [19] —. 「TOEIC® テストの新形式問題におけるパート 2 の難易度を再推察する——ETS 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』（近畿大学経済学会）第15巻第 1 号（2017年 7 月）：41-57.
- [20] —. 「TOEIC® テストの新形式問題におけるパート 2 の難易度をさらに考察する——ETS 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』（近畿大学経済学会）第16巻第 2 号（2018年11月）：33-48.
- [21] 国際ビジネスコミュニケーション協会. 「TOEIC® Program DATA & ANALYSIS 2019」（http://www.iibc-global.org/library/default/toeic/official_data/pdf/DA）：1-24.